

教科・科目（単位数）	家庭 ・ 家庭総合 （ 2 ）	学年	2 年
使用教科書・副教材等	家庭総合（実教出版）	集団	全HR
農業高校における家庭科としての目標 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、様々な人と協働しながら解決する資質や能力を身につけることで、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする態度を養う。			
科目の目標 生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			
（１） 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。			
（２） 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。			
（３） 様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。			

評価の観点とその趣旨

①知識・技能	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらにかかわる技能を身につけている。
②思考・判断・表現	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。
③主体的に学習に取り組む態度	さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。
評価方法	定期テスト、ワークシートへの記入状況、グループでの話し合い・発表、レポートの作成

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4	住生活をつくる	住居の機能や気候・風土とのかかわりに関心を持ち、各地の気候・風土に適した住まいを理解している。	○		
5		家族構成やライフステージなどのかかわりから、平面図を読み取ることがきる。	○		
		住まいの文化や機能・役割、また、ライフステージや家族構成などと住まいの関係について理解している。			
6		ライフステージと住空間の設計の関係、住宅政策や住環境との関係について考えを深めることができる。		○	
		日照・日射・採光・照明・通気・換気など、健康的な住まい環境における基本的な知識が理解できる	○		
7		安全な住まいづくりや、快適な住環境のためにどのような課題があるのかを見つけることができ、その課題解決のための方策を考えることができる。		○	
		快適な住まいづくり、持続可能なよりよい住生活の創造のため			○

		に、自分の住生活の課題を見つけ、解決に向けて実践しようとしている。			
	(夏休み) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	家族の生活時間や、生活から見えてくる課題を探ことができ、それに対する具体的な解決方法を考え、実行することができる。 自身の活動についてレポートにまとめることができる。	○		○
9	衣生活をつくる	衣服が持つ機能や安全性についての知識を身につけ、誰もが快適な衣生活を送るための要因を理解する。	○		
		衣服の素材の種類や特徴についての知識を身につけ、用途に応じた衣服が適切か理解できる。	○		
		衣服材料の性能と特徴、衣服整理についての科学的な知識や、縫製技術を身につけることによって、衣服を適切に選択し管理することができる。	○		
10		衣服材料・衣服整理についての基礎的な知識を身につけ、実生活での衣服管理において、適切な判断ができる。		○	
		衣服製作実習を通して、材料の選択、日常の管理の方法を習得するとともに、基礎的な手縫いなどの縫製技術を身につけ、製作ができる。	○		
		現在の衣生活を取りまく状況について、自分の衣生活を振り返りながら、課題を導き出すことができる。		○	
		衣生活に関する生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活を創造し、持続可能な衣生活を実践しようとしている。			○
11	消費行動を考える	様々な情報を収集しながら、自分の消費行動について検証することができる	○		
		消費行動における意思決定の過程において、具体的な事例を通して主体的に考え、判断することができる。		○	
12		自分が一消費者であることを自覚し、物・サービスの購入のあり方や、消費行動、消費と環境とのかかわりについて積極的に理解しようとする。			○
		消費行動における意思決定の過程とその重要性について理解でき、また契約についての知識を身に付けている	○		
		多様化する販売方法や支払い方法について、問題点や解決策を考え、判断することができる。		○	
		消費者の権利と責任などについて理解できるとともに、現代の消費生活の課題について認識できる。	○		
1	経済的に自立する	消費者としての自覚を持ち、消費者の権利と責任を考えることができる。		○	
		家庭経済・国民経済のしくみについて理解でき、短期・長期的経済計画の重要性を認識できる。	○		
		現在の経済社会と家計の関係を考えながら、家庭の収入・支出・預金などについて、適切な考えを持ち、判断ができる。		○	
2		自分の経済的自立を考えながら、家庭経済・国民経済のしくみや家計の特徴について、積極的に理解しようとし、短期・長期の経済計画について意欲的に取り組もうとしている。			○
		短期・長期の経済計画にかかわる実習を通して、経済的な側面から人生設計を組み立てることができる。	○		
		将来のライフイベントとその費用を考えることができる。		○	
	生活設計	精神的、経済的、生活的、性的自立にむけて、家庭総合で学んだ技術や知識を確認し、これからの人生を考え、設計できる。		○	

教科・科目（単位数）	家庭 ・ 家庭総合 （ 2 ）	学年	1 年
使用教科書・副教材等	家庭総合（教育図書）	集団	全HR
農業高校における家庭科としての目標 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、様々な人と協働しながら解決する資質や能力を身につけることで、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする態度を養う。 科目の目標 生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１） 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。 （２） 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 （３） 様々な人と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。			

評価の観点とその趣旨

①知識・技能	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらにかかわる技能を身につけている。
②思考・判断・表現	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。
③主体的に学習に取り組む態度	さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。
評価方法	定期テスト、ワークシートへの記入状況、グループでの話し合い・発表、・レポートの作成

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4	これからの人生について考えてみよう	自分自身について考えるワークシートなどを通して、自分や、人の一生についての考えをまとめることができる。	○		
		人生の各ライフステージの特徴と課題について知り、少子高齢社会、男女共同参画社会などの社会状況を考えながら、自分の生活や将来について考えを深め、それを表現することができる。		○	
		現在の自分のこと、将来の生活設計を考えることについて、意欲を持って取り組もうとしている。			○
5	自分らしい生き方と家庭生活	青年期の課題である自立や男女の平等と相互の協力などについて理解できる。	○		
		男女共同参画社会など、現在の社会的状況について、興味を持って知ろうとする態度がある。			○

6		労働の意義や役割, 労働時間と生活時間との関わりについて関心をもち, 現在の家族・家庭がかかえる課題を見いだそうとする。			○
		結婚, 家族・家庭の多様化や, 時代とともに変化する役割について理解できる。	○		
		時代とともに変化した背景について読みとり, 現在の家族・家庭のあり方や役割について考えを深め, 表現することができる。		○	
7	高齢者とかかわる	高齢社会の現状や高齢者の心身の特徴について理解している。	○		
		高齢社会の現状, 高齢者の心身の特徴や生活について積極的に知り, 高齢者とかかわろうとしている。			○
		インタビューなどで高齢者とかかわることで, 高齢社会に関する課題を導き出し, それをレポートなどで表現することができる。		○	
		基礎的な日常生活の介助の方法について理解している。	○		
9	子どもとかかわる	生命の尊さについて, 自分の現在, 将来と結びつけながら, 学習しようとする意欲がある。			○
		子どもの心身の発達や子どもの生活についての知識を身につけている。	○		
		子どもの心身の発達, 現在の子どもを取り巻く状況や子育ての環境について, 課題を見つけ, 解決への考えをまとめることができる。		○	
		生命の尊さ, 子育ての意義について理解することができる。	○		
10		子どもとふれあう体験学習について, 準備, 実施, 考察・反省まで, 体験学習の一連の学習内容をまとめることができる。		○	
		子どもの発達段階において, 子どもをとりまく人とかかわり, 地域環境・社会環境の重要性, 子どもの福祉について理解できる。	○		
11	食生活をつくる	食事の意義や役割について, 食文化や食生活を取りまく環境から理解できる。	○		
		各地の気候風土や宗教による食生活の違いについて理解するとともに, 日本の食文化の特徴について理解できている。	○		
		地域の食文化やそれが発展してきた背景などについて, 書籍や家族などから情報を収集して調査内容をまとめることができる。		○	
		食文化や自分自身の食生活について関心をもつとともに, 自分や家族の食生活について意欲的に改善・向上に努めようとする。			○
12	(冬休み) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	家族の生活時間や, 生活から見えてくる課題を探ことができ, それに対する具体的な解決方法を考え, 実行することができる。	○		○
		自身の活動についてレポートにまとめることができる。		○	
1	食生活をつくる	栄養・食品に関する科学的な知識や調理の技術を身につけ, それを実際の食生活に生かすことができる。	○		
		旬の食材にはなにがあるか, なぜ旬の食材がよいのかを理解している。食中毒の予防法や, 食品添加物の特徴をとらえることで, 安全な食品について理解している。	○		
		栄養・食品・調理に関する基礎的な知識を生かしながら, 家族の献立を作成することができる。調理実習を通して, 日常の食事づくりに必要な調理技術を身につけ, 献立作成から後かたづけまでの一連の流れを計画し実践できる。	○		
		現在の日本の食生活においての課題を発見し, 解決の方法について自分の考えをまとめることができる。		○	
		調理実習を通して, 自分の食生活の課題を見つけ, 解決に向けて実践に生かそうとしている			○
2					

